

推せん候補の必勝を！

総選挙闘争勝利。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

総選挙闘争を完全放棄し、出来もしない「千葉再建」に血道を上げる「本部」！

一〇月七日の投票日を目前に総選挙闘争は、いよいよ終盤戦をむかえ、推せん候補の必勝にむかつて一層闘いを強化しなければなりません。大平内閣は、発足以来、そのハト派的ポーズとはうらはらに、元号法制化、東京サミット厳戒、さらには一般消費税の導入、増税、など反動的攻撃を失つぎ早に強行しています。今回の総選挙が八〇年代を目前にして自民党の勝利をもって、一層の反動化を許すのか、それともこの動きに大きく歯止めをかけるのか、極めて重要な意義をもっています。

前代未聞の「動労型総選挙闘争」！

動労「本部」は、今次総選挙闘争における推せん候補を「動力車新聞」第一二九八号（九月一九日）に発表しました。しかし、おどろいたことには、千葉県の社会党公認候補者を誰一人として推せんしていないという全くのデタラメなやり方です。

これは、一体、何を意味するのでしょうか。考えられることは、まず第一に、「千葉地本再建」がいまだ出来ず、従って、推せんの上申が「千葉」から「本部」に出来ないという形式論からの推せん拒否。第二に、社会党千葉県本部・組織局長に動労千葉より中江昌夫氏が就任しており、この執行部によって決定された候補者は推せん出来ないというセクト的・組織的事情からの推せん拒否。

第三には、ただ単に「千葉にくし」の感情論からのみ社会党公認候補者の推せんを拒否した。いづれにしても、動労「本部」は、千葉における社会党候補者の「推せん拒否」を公然と行っているのです。

千葉県下に住んでいる動労「本部」の組合員は、一体、誰に投票したらいいのか、他人ごとながら心配してしまいます。

かつて、このようなことがあったでしょうか。さらに、三年前、全組織をあげて闘った東京九区の「そうだ」選挙については、今回も同氏が立候補しているにもかかわらず、全く無視に等しい扱いをしています。

これが動労型「選挙闘争」の実態なのです。

動労「本部」八揶執行部は、
発足以来何をやったのか？！

熊本全国大会が片肺欠陥執行部として発足してから一ヶ月半が経ちましたが、この間、八揶執行部は、一体何をやったというのだろうか。まず第一にやったことは、「申第一号」をもっておどろくなかれ事実経過をデッチ上げた上で国

鉄当局にむかつて「動労千葉への弾圧をもっとしつかりやれ」と叱咤激励し、「処分せよ」と要求しているのです。

そして第二にやったことといえば、八揶委員長をかつぎ出して国電津田沼駅近くに動労千葉破壊の拠点たる「千葉事務所」の事務所開きを行なったぐらいなものです。

しかし、こうした二つのこと自体、極めて反動的・反階級的なことであり、労働組合にあるまじき行為であります。

こうして、今や動労「本部」は一切の本来の労働運動をすべて放棄し、しかも、現に闘われている総選挙闘争すら放棄して、動労千葉破壊のみに血道をあげているのが実態です。

一切の組織破壊策動を粉碎し、
総選挙闘争に勝利し、10・21
反戦闘争を闘い抜こう！

全国の動労組合員の皆さん！
動労千葉は、この間、全支部あげて動労「本部」の組織破壊策動を断乎として粉碎してきましたが、この力をもって現在、総選挙闘争を推せん候補の必勝めざして闘い抜いています。
われわれは、三里塚二期工事強行を許さず、ジェット燃料増送計画粉碎にむけ、総選挙闘争に勝利し、10・21反戦・三里塚闘争の貫徹めざして闘い抜く決意です。

